

# 写真は楽し ～ 2

## 富山電塾 第1回セミナー

2015/5/30 CiC学習室

講師：早川廣行塾長

4月のキックオフセミナーに続き、デジタルフォトを楽しむための三つのポイント各論について、画像処理ソフトAdobe LightroomならびにPhotoshopCC使いを軸にお話しいただきました。



### デジタルフォトを楽しむための三つのポイント ～キックオフセミナー内容も含めて

#### I. 自分の目的(表現意図)に適切なカメラ

- a) 解像度：最終的な表現サイズによる
- b) 焦点距離：被写体のサイズ、距離
- c) 連写性能：スポーツ、スナップで重要
- d) 感度、潮長時間露光対応性能
- e) 即応性(立ち上がりの速さ)
- f) カメラのサイズ、デザイン
- g) 防水・防滴・防塵機能、耐寒性
- h) 撮影可能時間(バッテリー性能)
- i) 手ぶれ補正機能(5段程度が標準)
- j) センサーゴミ対策(レンズ交換式)  
…撮影対象、予算などと考慮

#### II. 画像制作に適したコンピューターシステム

- a) 演算装置の画像処理能力が高い
- b) 搭載メモリーの容量、8GB以上
- c) 記録装置(HDDなど)
- d) 定評と実績のあるOS(Mac/Winなど)
- e) 演色性の良いモニター(最低限でもsRGB)
- f) 画像処理に適した作業環境、環境光

- 色合わせは標準光源(色評価用蛍光灯)下で
- g) モニターキャリブレーター必須
- h) 長時間作業に耐える良好な椅子
- i) 30inchモニター1台より19inch×2台  
人間の目は並べないと正確に比較できない

#### III. 目的(表現意図)に適した画像処理ソフト

- a) Adobe フォトグラフィープランは普及している中で最も経済的
- b) Lightroom(=Lr)は  
画像データベースと非破壊編集が特徴
- c) Photoshop(=Ps)は  
画像処理ソフトとして最高・最強
- d) グラフィック処理の万能性
- e) レンズ前勝負の写真家はLrだけで作業完結
- f) Lrは階調重視の高精細画像処理
- g) LrCCではHDR画像を簡単に作成可能
- h) // ではパノラマ合成に対応可
- i) // では顔認識機能で自動検出、分類
- j) Lr+Psのコラボで理想的画像処理環境

## Lightroom(Lr)使いのコツ

\*レンズ補正→「Upright」一発で真四角に。うまくいかないときは「手動」で

\*トーンカーブ補正→Lrは元データを壊さない=何度でもやり直し可能

\*画像データベースとしてのLr

まず画像ファイルを「読み込み」『カタログ』を作成→他のソフトより一手間かかる

しかし、同時に画像データベースが自動的に作成される=大きなメリット

『キーワード』『レーティング』『フラッグ』『カラーラベル』などで自分だけの検索機能を

読み込み元(元画像)のファイルを削除・移動・名称変更すると→「？」表示に

// は先に1つのボリュームにまとめておくのが無難な運営

スマートプレビューは大いに活用しよう

## Lr作業開始(ライブラリモジュール)の流れ

①立ち上げ(「Lrカタログを指定して開く」に設定変更しておく)

②新規カタログ作成 名前、場所、タグなど指定

③読み込み作業の開始

読み込み>読み込むファイル選択(必要無い写真は✓外す)>読み込み(「追加」)

④コレクション機能の活用

「スマートコレクション作成」…レーティング、キーワード、フラッグ、カラーラベルなど

意図的にコレクション作成…画像を選択>コレクションを作成>名前をつけて保存

⑤読み込み作業完了、以下「現像」「スライドショー」「書き出し」などの作業へ

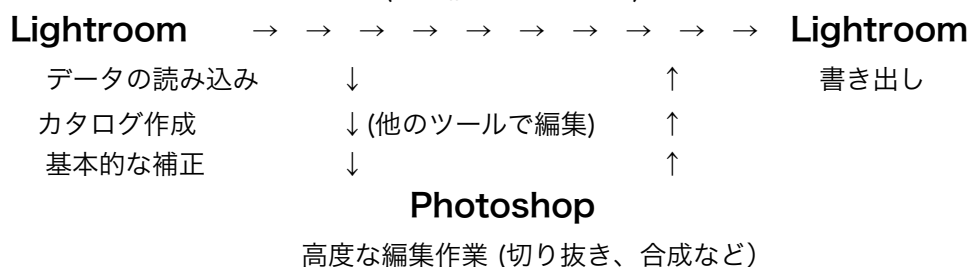
～Lr作業の流れは次回セミナーへ続く～

\*\*\*\*\*

## 今迄のRAW現像で満足ですか？～Lightroom+Photoshopコラボのススメ～

元データより見栄えのする写真に仕上げよう!!

(基本補正のみの場合)



## PhotoshopCCを使った画像処理のポイント

- a) 選択範囲作成技術が全ての要…35種類以上の選択ツール  
多角形選択ツール、クイック選択ツール、属性パレットのマスク調整、レイヤーマスク など
- b) 階調補正は16bitモードで
- c) 画像補正はRGBカラー
- d) 階調補正はトーンカーブを使用する…必要最小限に。できる限りLrで行う。
  - ①カラーチェッカーを同じカットで撮影 ②RGBそれぞれ別のカーブでグレーを整える。
  - ③全体の明るさ、コントラストを整える ④色相・彩度で色の偏りを補正(±5以内)
- e) レタッチは修復ブラシ系とスタンプツールを使い分け  
修復ブラシ系(ヒーリングブラシ)…移植先のグラデーション壊さない。  
スタンプツール…手早くピンポイントで修復、コントラストのある所で有効。  
ペイントブラシ系は、べったりとしてテクスチャを失うため注意。
- f) 歪みフィルターはレタッチの決め手  
変形ツールより有用。ピクセルの移動がわかりにくく、綺麗。

## Ps作業の流れ

- ①Photoshop立ち上げ>ファイル開く→全ての読み込み可能なドキュメント  
ワークフローオプション：Adobe RGB(Web用はsRGB)  
16bit  
画像サイズ指定

②全ての作業は、ポイント数を極力少なく！

③まずはLrで基本補正

- i. グレーバランスをトーンカーブで整える…3点ほどで
- ii. 明暗をトーンカーブで調整
- iii. 彩度を上下 彩度→全体の彩度を動かす  
自然な彩度→人肌を自然に残し、他の色を動かす  
部分的にいじりたいときはHSLで

…海外アーティストの補正プリセットなども参考に。

オリジナルプリセットの作成も便利。

～Ps作業の流れは次回セミナーへ続く～

\*\*\*\*\*

## Lr・非破壊編集の意義

- 元データはそのままに、処理・補正の履歴が付加される
- =履歴を辿ると編集の意図がわかる
- =自分以外の人間がさわっても記録が残る
- =クオリティマネジメントシステムである

(文責:森)